

# 島根県ヨット連盟

## これまでのあゆみ

最初の東京オリンピック開催の年である昭和39年3月に、島根県ヨット連盟は誕生した。令和6年で60周年を迎えることになった。これは、島根県スポーツ協会をはじめ、県内外多くの方々のご理解・ご協力と諸先輩方の努力の賜物と厚くお礼申し上げます。

連盟結成翌年の昭和40年から国体（岐阜国体）に参加し、昭和57年の「島根くにびき国体」では、ヨット競技天皇杯2位の成績を収めることができた。

創成期から島根くにびき国体後にかけては、数度の種目別優勝や入賞を果たし、インターハイでも入賞を繰り返している。これらの原動力となったのは松江ヨット協会の存在であり、島根大学ヨット部、隠岐水産高校ヨット部、隠岐高校ヨット同好会、隠岐地区や安来地区のジュニアクラブ活動であった。ジュニアクラブ経験者が高校ヨット部に進学し、やがて全国各地の大学ヨット部で活躍するという流れが機能し、成し得たものである。少年種目を中心に、毎年春先から秋にかけて、日本海の荒波に逆らいながら厳しい練習を繰り返してきた結果でもある。



隠岐島前3島一周ジュニアヨットマラソン（平成3年）

しかし、時代は昭和から平成へと移り変わり、社会全体に少子化という波が押し寄せてきた。当連盟もこの波には逆らうことができず、ジュニアクラブはメンバーの減少により活動休止に、島根大学ヨット部と隠岐高校ヨット同好会は廃部に、隠岐水産高校は年により部員数に片寄りができ、思うように練習ができない、大会参加がままならないといった年もあった。松江ヨット協会も会員数の減少により十分な強化活動が行えない状況となっている。

国体の総合成績では平成9年大阪国体での天皇杯8位、皇后杯4位、種目別では平成23年山口国体での成年男子国体ウインドサーフィン級6位以来入賞から遠ざかってしまったが、令和4年栃木国体少年男子ILCA 6級で久々の7位入賞を果たすことができた。

## 現在の状況

近年国体、インターハイで活躍ができていなかったこともあり、県内でのセーリング競技はかなり下火になってしまった。現在、2030年に開催される「島根かみあり国スポ」を見据え、高校生の強化に取り組み始めており、令和5年には隠岐水産高が27年ぶりにインターハイ出場を果たすことができた（女子ILCA 6級）。今後は他種目、男子種目でもインターハイ出場、国スポで上位入賞ができるよう、強化活動を継続していく。また、組織全体のレベルアップを図るべく指導者スキルの向上、競技役員養成等の取り組みを進めているところである。

今後は選手強化活動に伴い遠征費等の経費増加が見込まれるため、OB・OG、関係者、関係各所等へ募金協力をお願いし財政基盤の強化を図っていく必要がある。



少年強化合宿（令和5年）

## これから

2030年開催の「島根かみあり国スポ」に向けて、少年選手、成年選手共に強化が必要である。特に少年女子、成年女子は長年選手不足に悩まされている。ジュニアクラブを経て高校ヨット部、そして大学ヨット部で活動する、卒業後も社会人として競技を続けていくといった、くにびき国体前後の頃のような流れを再び構築していくことが必要と感じている。そこで、休止していたジュニアクラブの活動を復活させ、小・中学生に海に親しむ機会、セーリングを楽しむ機会を提供していくことを予定している。

これまで競技志向が強く、「セーリングを『楽しむ』」機会の提供があまりできていなかったことを顧み、子どもから大人までさまざまな方々にセーリングを楽しんでいただく、海に親しんでいただく機会の創出を行うことで、将来的な愛好者の拡大、競技人口の拡大につなげていきたいと考えている。

愛好者・競技人口の拡大、選手強化、財政基盤の強化、これらを三位一体となし実現すべく、眼前の課題の波をひとつひとつ乗り越えていく所存である。

あらゆる波を乗り越え、昭和57年くにびき国体で逃した「天皇杯」に再挑戦する。